

## 令和6年度第1回 高時川濁水問題検討会議 議事概要

日 時:令和6年11月12日(火)14時00分~16時30分

場 所:長浜市役所高月分庁舎 3B会議室

出席委員:原田委員、倉茂委員、大久保委員、吉村委員、五味委員、  
宮崎委員、前川委員、片山委員、向田委員、阪田委員、桑原委員(代理)

### 会議の概要

#### 1 開会

##### (事務局)

- ・高時川濁水問題検討会議第1回を開催する。
- ・高時川濁水対策連絡調整会議事務局長の森林保全課長よりあいさつ。

##### (事務局長)

- ・令和4年8月豪雨後高時川の濁りが解消されていない中で、御意見をいただきたい。
- ・昨年度1年間かけて水質や山の土砂の移動量等を調査し、国、長浜市、県の関係部局で行うさまざまな取り組みをまとめた。
- ・令和6年度のこれまでの取組を報告するので、評価検証していただくとともに先進的な事例もあれば紹介していただきたい。
- ・高時川の濁りの解消に向けた取り組みが進むよう、御意見、御蒞議いただきたい。

#### 2 各委員の紹介

- ・事務局から学識経験者および高時川に関する実情に詳しい者(地元関係者)を紹介。

#### 3 座長の選出

- ・座長は原田委員に決定。
- ・以後座長による会議の進行。

#### 4 議題1 令和5年度の実績結果

##### (森林保全課)

- ・高時川の長期濁水の原因および対策について、昨年度にまとめた報告を概要版にて説明。
- ・長期にわたる濁水の原因や土砂の移動量にかかる調査等を行ったこと、有識者による検討会議や地元への報告会を開催したこと、濁水の原因が2つあること(①高時川本流の中下流に広範囲に堆積した土砂が降雨のたびに巻き上げられるもの、②大雨により土砂が剥き出しになっている場所

等が浸食されその一部が本流に流れてくるもの)、濁水はすぐには収まらないことからモニタリングを継続して実施していくことなどを報告。

## 5 議題2 濁度等のモニタリング調査

### (森林保全課)

- ・現在、高時川の本流7箇所(内1箇所は大久保委員)、支流2箇所で自記濁度計による調査を実施中。
- ・大雨が降ってもしばらくすると濁りは収まる傾向が見られるが、これは対策の効果というよりも、堆積土砂が減少しつつあるものと推測。

### (水産試験場)

- ・姉川と田川のやな漁場での濁水の調査では、全体的な傾向として、災害のあった2022年から2023年の夏までの間は、姉川で濁りが継続していた。
- ・2024年は前年の同時期と比べて、春から夏にかけての濁りは収まっており、姉川と田川を比べると、田川では姉川のような極端に強い濁りというのは観測されなかった。

### (大久保委員)

- ・県調査とは別に、下丹生地先に自記濁度計を設置して濁りを計測しているが、今年は去年に比べ雨が少なかった。
- ・水位と濁度の関係について、経年変化を見れば同じ水位でも、濁度が下がっていれば濁りは収まってきていると言えると考えていたが、堆積土砂の影響で水位自体が正しい値を示していないことがわかった。
- ・降水量と濁度の関係をみると、傾向として去年より今年の方が同じ降水量であれば濁度は下がっていると言える。
- ・ただし、降水量が大きいときは去年と今年で差は見られないことがわかった。
- ・もう少し解析しないとわからないが、雨が降った後の濁度の回復も去年より早くなってきている傾向にあると思われる。
- ・今後、降雨強度の強い雨が降り上流から細粒土砂が供給されれば、濁水が再び長期化する可能性もあるので安心はできない。

## 6 議題3 今年度の取組状況

### (湖北森林整備事務所)

- ・スキー場跡地について、現在是正工事中。今年12月までには完了予定。
- ・大音波谷川では治山事業を実施すべく現在測量調査を実施しており、事業実施のためには土地所有者の同意を得て保安林に指定する必要がある。

(長浜土木事務所木之本支所)

・高時川本流で被災している箇所について、昨年度から災害復旧工事を継続し順次完了。

(水産課)

・漁業者が中心となって実施する水産多面的機能発揮対策事業の中で、アユの産卵場の環境改善のための河床耕うんを今年度から規模を拡大。今後も、より効果が発揮できるよう検討しながら実施。

(琵琶湖河川事務所)

・高時川本流の損傷が著しい針川堰堤の復旧工事中。年度内の完成を見込んでいるが、湧水や降雪等の状況により遅れが生じる見込み。

(滋賀森林管理署)

・支流の尾羽梨川での治山堰堤のクラックの状況について、損傷等の大きな変化はなく調査継続。

(長浜市)

・余呉地域でのシカの捕獲状況について、ここ3か年で年間800～1200頭を捕獲しており、森林への被害の低減に努力。

## 7 提案・意見・質疑等

○委員(学識経験者)

・地形学の観点から、流域全体がどうなっているのかを考えることが大切。

・高時川は断層の影響で非常に珍しい地形であるので、そういった視点で対策等も検討してほしい。

○委員(学識経験者)

・針川堰堤の補修について、壊れる前に溜まった土砂はどうされたのか。掘削時に泥やシルトは見られたか。

(回答:琵琶湖河川事務所)

・施工にあたって掘削が必要な土砂は持ち出している。掘削した際に泥などはあまり出なかった。

○委員(学識経験者)

・濁水発生以前のもとの状態に戻っているのかは、濁度の推移を見ることで回復傾向にあるのかと

うかがわかなと思う。

- ・資料の濁度計測データを見ると、全体的には透明度は上がってきていると思われる。

○委員(学識経験者)

- ・高時川流域全体のすがたをもう少し整理する必要がある。
- ・川の状況だけでなく、森林の密度や樹種構成を踏まえ、本来土砂はもっと細かな支流(森林域)から出てくるので、そこを分析すべき。
- ・河床内の地形の変化について、もっとモニタリングすべきではないか。計測をしっかりしながら、どう変わっていくのか、川の流れをどう変えていくのか、具体的にどこに対策をしていくのかを検討してほしい。

○委員(学識経験者)

- ・大久保委員や県の濁度調査のデータをもとに流量も加味して分析し、濁りが収まってきているのかどうか次回の検討会議で報告したい。

○委員(地元関係者)

- ・高時川から取水しているが、濁水は収まってはきている。
- ・豪雨直後は用水路に泥がたまったりして自治会や農業者から撤去に対する支援の要望があった。
- ・当時は泥水による揚水ポンプの故障等も見られ、以前よりも耐用年数が短くなり対応に苦慮している。
- ・漁業だけでなく、農業においても地元負担等影響は大きいということを知ってほしい。

○委員(地元関係者)

- ・大見いこいの広場のキャンプ場に聞くと、今年度はだいぶ濁水は収まってきている。
- ・アユの特産品化を目指しているが、キャンプ場をはじめとした施設等に観光客を呼び込み、交流人口も増やしていきたいが、濁水問題がおきると停滞し地域が疲弊してしまう。検討会議で情報を共有しこれらの問題解決に当たりたい。

○委員(地元関係者)

- ・地域の地下水が干上がったことから、昨年度の検討会議でそのことを報告させていただいた。
- ・令和4年には大きな雨が降り、ここ2年程は大きな降雨はないが、住民の生命を守るとともに、貯水という観点でも、ダムがあった方がよいと思う。
- ・かつて計画されていた丹生ダムは中止されたが、一度中止されたものでも何とか復活できないか検討してほしい。

(回答:水源地対策室)

- ・気候変動を踏まえ、様々な方法で治水計画を検討していく。

○委員(地元関係者)

- ・濁水が収まってきて安心している。
- ・濁度だけでなく生物の数といったような、生物保護の観点で数値化(モニタリング)を検討してほしい。

(回答:森林保全課)

- ・今後の課題としたい。

○委員(地元関係者)

- ・濁水の減少は対策の結果ではなく流れ出る細かな土砂そのものが少なくなってきていることによるもの。
- ・濁りは引いたが河床内に土砂の堆積が見られ、令和4年8月の豪雨前と後とで川の様子が大きく変わっており、アユの生息できる環境は回復していない。
- ・アユの餌場となる頭大の大きな石の上に小さな砂礫が堆積して河床が上昇しており、なんとかこれらの土砂を取り除いてほしい。河床耕うんを実施してほしい。
- ・実施釣り人も以前より少なく6割ぐらいであり、漁協にとっては死活問題である。
- ・大音波谷川での治山堰堤について、予算等の問題もあり難しいと思うが、一刻も早く設置してほしい。
- ・スキー場跡地において風力発電施設が計画されているが、もろい泥岩層のところで尾根を削り自然改変することについて、さらに土砂災害や濁水が生じることにならないか懸念している。
- ・スキー場の二の舞にならないよう、琵琶湖環境部としてこの問題に対応してほしい。

(回答:長浜土木事務所)

- ・土木事務所では、土砂が流れてきて河道が閉塞し水の流れを阻害するような状態となったところについて、優先的に土を浚業している。

(回答:水産課)

- ・河床耕うんは、水産多面的機能発揮対策事業として他の漁協でも実施されているので、取組について検討してほしい。

(回答:湖北森林整備事務所)

- ・大音波谷川での治山堰堤については、再来年度中にできたらと考えているが、出来るだけ前倒しするよう努力したい。

(回答:森林保全課)

- ・風力発電事業を所管する環境政策課は同じ琵琶湖環境部であり、要望いただいた内容を同課に伝えるとともに連携していきたい。

○委員(地元関係者)

- ・大きな岩がある所の方がアユの生息には良い。
- ・細かな礫が堆積しているようなところにはアユは生息せず、釣り人も寄り付かない。

## 8 議題4 その他

(事務局)

- ・今回の検討会議の内容を地元の方にお知らせするため、令和7年1月に報告会を開催予定。
- ・令和7年3月に第2回検討会議を開催し、是正工事の完成状況、大音波谷川での治山工事の概要等を報告し、濁度調査の結果をもとに取組の検証と更なる対策の検討を予定。
- ・第2回検討会議の内容を地元の方にお知らせするため、令和7年5月に報告会を予定。

## 9 座長まとめ

(座長)

- ・短期的な対策としてやれることにベストを尽くすとともに、中長期的に高時川の流域をどうしていくのか、濁水だけでなく他にも様々な問題が起こっているという前提で対応していくことが必要。
- ・風力発電事業については、この会議の趣旨ではないが、関連する事項だと思うので、事務局としてきちんと受け止め、今後の議論の中で反映できるようにしてほしい。

## 10 閉会

(事務局長)

- ・座長をはじめ委員の皆様へ感謝する。
- ・濁水対策の範囲を超えた話もいただいたが、国、長浜市、県でいろいろな取り組みができる機会があるので、一つ一つ解決に向けて進めていきたい。
- ・具体的な作業については、委員の皆様にも相談をさせていただきながら進めたいので、引き続き協力いただきたい。